

4) 膠原病と肺高血圧

NTT西日本大阪病院 膠原病・リウマチセンター

センター長 前田 恵治

肺高血圧という言葉をお聞きになったことがありますか？あまり馴染みのない方がほとんどだと思います。それと比べて高血圧はよく知られています。高血圧かどうかを見る血圧測定は、病院で、自宅で、血圧計があれば簡単に測定できます。

心臓が4つの部屋に分かれていることはよく知られています。左側の左心室から大動脈を経て、体のすみずみまで血液が運ばれます。この血液が流れる時の圧力を血圧として測定しています。一方、右側の右心室からは肺動脈を通して肺に血液が流れます。まれな病気ですが、この肺動脈の血圧が上がってしまうのが肺高血圧症です。

そもそもこの肺動脈の血圧は通常の高血圧の約5分の1程度しかありませんが、これが上昇すると血液循環に支障をきたします。血圧計では測定できませんので、心臓エコー検査で確認するか、心臓超音波検査（心エコー）で推定します。

本日のテーマの膠原病との関係は、ある種の膠原病患者さんでは肺高血圧を合併する比率が非常に高いという点です。特に、混合性結合組織病、強皮症、全身性エリマトデスで問題になります。これらの患者さんではときどき心エコーをして肺高血圧がないか、チェックしてもらう必要があります。もし疑いがあれば、心臓エコー検査で確認してもらいましょう。

最近、肺高血圧が注目を集めているのは、このようにある限られた病気（たとえば膠原病）でその頻度が高いことと、治療薬として肺血管を拡張させ肺動脈平滑筋の増殖を抑える薬剤が使用できるようになったからです。治療薬は大きく3種類に分かれます。プロスタクリンは肺血管拡張し、肺動脈平滑筋の増殖を抑制する薬剤で、PDE-5阻害剤は肺血管を拡張させる一酸化窒素を増加させる薬剤です。また、エンドセリン受容体拮抗薬は肺血管収縮作用のあるエンドセリンの作用を抑える役です。膠原病ではこの他にステロイド剤や免疫抑制剤も効果のあることがあります。

本日は肺高血圧という日頃聞きなれない病気について、できるだけわかりやすく解説いたします。

講師紹介

大阪大学医学部、同大学医学部大学院卒（医学博士）。米国MIT癌センター研究員を経て、NTT西日本大阪病院内科に勤務。現在、同病院アレルギー・リウマチ・膠原病内科部長兼内科部長、リウマチ・膠原病センターセンター長、大阪大学医学部呼吸器・免疫アレルギー内科学臨床教授（併任）。